

国立大学法人岡山大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念とし、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」を基本目的に掲げている。第2期中期目標期間においては、国際的に上位な研究機関となることを指向するとともに、社会の多様な領域において主体的に活躍できる人材の育成等を通じて、「学都・岡山大学」として中国・四国地域における中核的な学術拠点となること等を基本的な目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、国際バカロレア入試や語学教育の充実等グローバル化への対応、特色あるプロジェクト研究の推進と研究成果の国際情報発信等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(組織運営の改善、 事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

「大学院法務研究科附属弁護士研修センター」を設置し、同研究科出身の弁護士に対し、地域ニーズに密着した専門性の高い分野（自治体法務、医療・福祉法務、企業法務等）の研修を実施するとともに、地域の自治体、病院、福祉施設、企業等の組織に派遣し、地域へのリーガルサービスの提供を開始している。

グローバル人材育成の先導的役割を果たすコースとして、平成25年度から「グローバル人材育成特別コース」を開設することに伴い、各学部及び関係する全学センターの連携を調整し、コース運営の中核となる組織として新たに「グローバル人材育成院」を設置することを決定している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、 経費の抑制、
資産の運用管理の改善)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

新たに 4 名のリサーチ・アドミニストレーター（URA）を配置し、「国際科学イノベーション拠点整備事業」への応募において、企業、公的研究機関の参画についての交渉・調整、申請書類作成・提出の支援を行っているほか、科学研究費助成事業の獲得に向け、若手と新任教員を主たる対象とした申請書の書き方講習会を計 6 回行うなどの取組を行い、平成 24 年度の科学研究費助成事業の獲得は 867 件、24 億 3,152 万円（対前年度比 9,670 万円増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（ 評価の充実、 情報公開等や情報発信等の推進 ）

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

海外向けウェブマガジン「Okayama University e-Bulletin」を創刊し、ウェブサイトへの掲載や世界の研究者に向けたメール配信（約 1 万件）、同マガジンの編集に携わったサイエンスライターからメディアやジャーナリスト宛のリリース・メール配信（約 1,900 ～ 2,900 件）等、海外における知名度向上を図り、第 1 号及び第 2 号で配信した記事の一部が PHYS.org、Innovations Report 等、多数の海外ウェブサイトに掲載されている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

（ 施設設備の整備・活用等、 安全管理、 法令遵守 ）

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

教員が論文の重複投稿を行っていたほか、一部論文の投稿時の附属書類に虚偽の記載をしていた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向

けた組織的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

英語教育改革として、平成 25 年度入学生から、スピーキング、リーディング、ライティング、リスニング等の技能を徹底的に学習させるために、1・2 年次の必修英語科目を 4 コマから 8 コマとし、実質的な学習時間数を増やすことにより英語基礎力の強化を図るとともに、これまで課していた入学時の TOEIC IP に加えて、教養英語の学習過程の中盤(1 年次 12 月)及び終盤(2 年次 12 月)と、2 年次修了時まで計 3 回の全学統一 TOEIC IP を全学生に受験させ、学習効果を検証することとしている。

平成 24 年 4 月入学者から、「国際バカロレア入試」を実施しているとともに、ギャップターム(9 月～翌年 3 月の 7 か月間)を解消し、志願者数増加を図るため、「平成 25 年 10 月(秋)入学国際バカロレア入試(マッチングプログラムコース)」を実施しており、3 名が仮合格(欧州 2 名、国内 1 名)になっている。

国際質保証に対応した医学教育を展開するため、実習期間を確保し、学生・教員の評価を通して質の担保された診療参加型臨床実習の実現を目指す「脱ガラパゴス! - 医学教育リノベーション -」事業により、医学教育リノベーションセンターの設置等の体制整備を行い、実習評価の可視化により、明確な目標設定と達成度が把握できるシステムを立ち上げ、指導医が学生の学習到達度を確認できるようにしている。

「教育研究プログラム戦略本部」の大型プロジェクト研究の推進拠点「エネルギー環境新素材拠点」では、鉄系超伝導の基本物質で、超伝導へ移行する臨界温度を 45K に上げることに成功し、世界記録を更新している(Sci Rep 誌発表)ほか、「異分野融合先端研究コア」では、遺伝子のコピー数がどの程度増えるとダウン症候群やがん等の細胞機能への悪影響を引き起こすのかに関連して、酵母が持つすべての遺伝子の「限界コピー数」測定に関し、あらゆる生物種において世界で初めて成功(Genome Res 誌発表)している。

マウスの iPS 細胞を用いて、癌治療の面から重要な研究対象とされているがん幹細胞のモデルの作成に世界で初めて成功しており(PLoS ONE 誌発表)この成果は、URA の知的財産確保の支援を受け、知的財産戦略を支援する企業のインキュベーションモデルに採択され、研究費及び海外出願費用の獲得につながっている。

留学生同窓会において、上海、長春、台湾、韓国、ベトナム、バングラデシュにそれぞれ支部を立ち上げるなど、就職支援や大学支援の国際的な人的交流ネットワーク

を広げている。

国立6大学（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学）において、グローバル社会をリードする人材育成の推進と学術研究の高度化を目的とした包括連携協定を締結するとともに、主幹校として、ASEAN 大学連合（AUN）との交流促進等を目的とした「国立六大学国際連携機構」を設置し、共同学生交流プログラムの実施等の国際交流事業等に取り組むことを決定している。

共同利用・共同研究拠点関係

資源植物科学研究所では、国際コンソーシアムに参画してオオムギのゲノムの98% 解読（Nature 誌に掲載）に貢献するなど共同研究の推進を図っている。また、学内予算措置により共同研究員等宿泊施設を建設、運用を開始するなど、共同研究体制の進展が見られる。

地球物質科学研究センターでは、国際教育の推進等を目的として、国内外の学部生、大学院生を対象とした「三朝国際インターンシッププログラム」を実施しており、平成24年度は5か国8名（応募者31名）の学生を6週間に渡って最先端プロジェクトに参加させている。

附属病院関係

（教育・研究面）

新医療研究開発センターにおける各部門の基盤整備を進め、再生医療部では、国際展開事業を実施するための事業を進めるとともに、治験推進部では、岡山治験ネットワーク、疾患別臨床研究（治験）ネットワークの管理を行い、国際共同研究（治験）で新規6件、継続29件を受託している。

（診療面）

臓器移植に積極的に取り組んでおり、平成24年11月には生体移植を含めて、肺が100例目、肝臓が300例目を揃って達成し、特に肺移植の100例達成は国内最速となった。また、平成24年9月には慢性肝腎不全患者に対する脳死体からの肝腎同時移植を我が国で初めて成功させている。

（運営面）

外部から企業の取締役経験者を病院長補佐として招へいして、毎週開催する経営戦略会議や診療科長等会議等において、客観的な経営分析と改善の検討を行うとともに、月次収支状況及び診療科別の経営指標について毎月報告し、各診療科にフィードバックすること等により、安定した運営と収入の確保に取り組んでいる。